

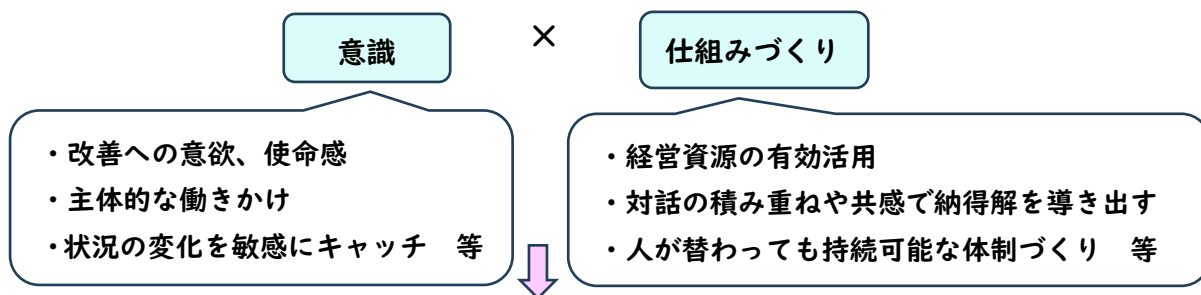
福井大会 分科会 提案発表を振り返って Part I

こんにちは、全事研福井大会研究部です。8月に行われました全事研福井大会の分科会では、全国から参集・オンラインにて多数の方々にご参会いただき、おかげさまで盛会裡に終えることができました。今回は、分科会での福井県の提案と事例発表の内容などについて、お伝えさせていただきます。

テーマ 「意識」×「仕組み」で「協働する組織文化」を創り出そう！
～ポジティブに しなやかに 進化し続ける学校組織へ～
助言者 茨城大学大学院教授 加藤 崇英 先生

I 提案

事務職員が学校の課題に対して主体的に関わり、より良い学校組織づくりに貢献していく過程で大切なことを「意識」と「仕組みづくり」の観点から提案しました。



これらを学校における具体的な課題や活動に落とし込み、改善につなげ、それを組織で共有することで「協働する組織文化」の醸成につながる 【提案 & 加藤先生からの助言より】

II 事例紹介

下記の2つの事例を紹介し、事務職員がより良い学校組織づくりに主体的にかかわっていく方法や組織の在り方について考えました。

「児童の自主ボランティア活動」
校内の整備などのお手伝いを児童に募り、自主ボランティアとして参加してくれる子たちの活動の計画や運営に携わりました。

「水の授業のゲストティーチャー」
ゲストティーチャーとして4年生の社会の授業に入り、学校で使っている水について説明しました。

今年の1月に福井テレビや新聞で紹介されました！！

校内でこれらを持続可能な「仕組み」として機能させることで、組織に好循環（＝「協働する組織文化」）がおのずと生まれ、円滑な学校組織運営につながった事例です。

提案内容や上記の取組事例については、冬季研究会で詳しくお伝えします。次回は、グループワークや参加者の声、助言者の加藤先生のお話を紹介します。